こぶしだより

2026 年 11 月 10 日発行

社会福祉法人　龍鳳ライフパートナーこぶし
〒203-0004　東久留米市氷川台 2-31-19
TEL:042-470-2385　FAX:042-470-2386
清瀬事業所/ふわっとん
〒204-0013　清瀬市上清戸 1-15-18
TEL&FAX:042-497-9481
https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/

職場の雰囲気は誰がつくるのか

日中活動支援部　部長
土橋　龍介

私たちが日々働く職場の雰囲気は、何によってつくられるのでしょうか。施設の方針や規則、職場の仕組みなど、さまざまな要素がありますが、その土台となるのは、そこで働く職員一人ひとりの言葉や態度、そして互いの関わり方ではないかと感じています。普段はあまり意識することがないかもしれませんが、何気ない一言や日々の振る舞いが、職場全体の雰囲気を少しずつ形づくっているのだと思います。

日々の業務の中では、経験や知識が豊富で、仕事を的確に進めることができる職員の存在は大きな力になります。一方で、仕事の能力が高いことと、周囲と良好な関係を築き、チーム全体の力を引き出すことは、必ずしも同じではありません。何気ない一言や強い口調、否定的な発言が、周囲の職員を委縮させたり、発言をためらわせたりすることもあります。

また、周囲の職員も、その場の雰囲気を気にするあまり、自分の意見を伝えることを控えたり、十分に考えずに同調したりすることがあるのではないでしょうか。一人の言動が周囲に影響を与え、その影響が積み重なることで、いつの間にか職場全体の空気がつくられていくこともあるように感じます。

こうした状況を、特定の誰かの問題として捉えるだけでは、職場風土はなかなか変わらないと思います。大切なのは、自分自身の言動が周囲にどのような影響を与えているのかを、一人ひとりが考えることです。自分では普通に伝えたつもりでも、相手は違う受け止め方をしているかもしれません。良かれと思って伝えた意見が、相手の発言する機会を奪っていることもあるかもしれません。

私自身も、自分の考えを伝えることに意識が向き、職員の思いや意見を十分に聞けていなかったことはないか、振り返る必要があると感じています。役職や経験年数にかかわらず、互いの考えに耳を傾け、必要なことを率直に伝え合える関係をつくることは、私自身の大切な役割でもあると考えています。

私たちの仕事は、職員一人の力だけで成り立つものではありません。ご利用者一人ひとりの思いや特性を理解し、より良い支援を考えるためには、それぞれの気づきや意見を持ち寄り、時には考え方の違いを認めながら話し合うことが必要です。互いを尊重することは、相手に何も言わないことでも、すべての意見に同意することでもありません。相手を尊重しながら、必要な意見を伝え合えることこそ、大切なのだと思います。

職場の雰囲気は、誰か一人がつくるものではなく、私たち全員の日々の積み重ねによってつくられます。自分の言葉や態度が周囲に与える影響を考えること。そして、自分とは異なる意見にも耳を傾けること。まずは私自身が実践し、職員一人ひとりが互いの力を生かし合える職場を目指していきたいと思います。

その積み重ねが、ご利用者にとって安心できる生活と、より良い支援につながっていくと信じています。



日帰り旅行は、緑溢れる昭和記念公園へ♪♪

Cafe ふわっとん　～読書の秋～



今秋から休憩時間の過ごし方に“読書”という選択肢が増えました✨
職員が旅行のガイドブックを持ってきてみたところ、思いのほか皆さん興味津々！
お気に入りの本を持参され１人で静かに読書を楽しむ方もいれば、仲間と一緒に楽しむ方もいらっしゃいます♪皆さんがどんなことに興味があるのか、新しい発見に繋がる予感がします！！



ねぇねぇ、きいて

生活支援員　笹原 朝陽

入職一か月目、私はその時不安でいっぱいでした。色々なことが新しく、精進する日々でした。とある昼食後の際、利用者であるＫさんが私の頭をなでて下さいました。支援していて良かったと思う心温まるひと時を過ごすことが出来ました。

キラリ☆と光るこの一枚



最近のブーム、朝読書！！「ひとり、ふらっと鉄道」がお気に入りです☆（石井 夏希）

口頭で伝える力

これまでとは違う環境で現場業務にあたる機会が増え、慣れていない方に現場に入っていただくこともあります。そのような際には、次にどのような動きをするか伝えますが、意図をうまく伝えられないことがあります。

ありがたいことに文章力を評価していただける機会がありますが、自分のペースで構成を考えることができる文章での伝達と違い、リアルタイムで情報の取捨選択や適切な言葉選びをしなければならない口頭での伝達の難しさを、日々痛感しています。

言葉選びに悩む私に対して、急かさずに耳を傾けてくださる皆様にはいつも感謝しています。そのような皆様に報いるべく、結論から伝えることを意識したり、あらかじめ作成した文章をもとに説明したりと、相手が理解しやすい伝え方を心掛けようと思います。

生活支援員　石澤 泉

写真についてはご本人（代理人又は成年後見人）の同意を得て掲載しております。

フォトニュース　～10月の様子～











日帰り旅行
昭和記念公園へ
行ってきました！

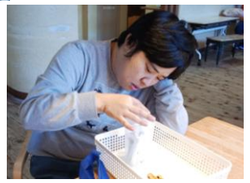
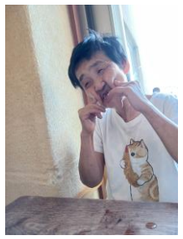






♪余暇・活動♪




SDGs とは【持続可能な開発目標】のことで、人々がこの地球で
暮らし続けていくために、2030 年までに達成すべき国際目標です



こぶしが取り組む SDGs ってどんなこと？



3 すべての人に健康と福祉を

利用者さんの「できた！」を増やせるような個別プログラムを提供しています
日帰り旅行や季節の行事を大切に、利用者さんと支援者のお互いが成長し、
笑顔で支えあえるような場所を目指しています

8 働きがいも経済成長も

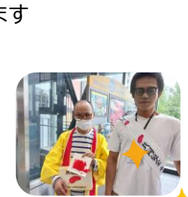
職員のストレスチェックの実施や、資格取得補助制度、バースデー・健康報奨休暇など
働きやすい環境を作っています。

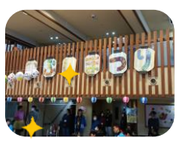
10 人や国の不平等をなくそう

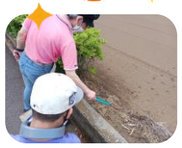
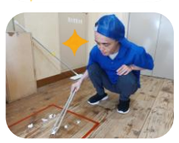
自治会との連携やこぶし祭り、地域イベント参加を通して、障害者理解を広め地域との
繋がりを大事にしています

12 つくる責任 つかう責任

ペットボトルキャップや古紙の回収・古布のリユースなどを実施しています





気づいた先には

総務事務部 部長　大神田 千恵

木々の葉がほんのりと赤や黄色に色づきはじめ、秋の深まりを感じる季節となりました。いつも見慣れた景色も、少しずつ表情を変えています。例えば宅配便のトラックが走り去り道端の落ち葉を舞い散らせたときや、出勤しようと家から出た瞬間の身のすくむような空気の冷たさなど、普段は何気なく通り過ぎてしまうような光景も、少し意識を向けることで季節の移り変わりを気づかせてくれます。

こうした変化は、特別な出来事ではなく日常の中にさりげなく存在しています。そして少し目を向けたり、見方を変えるだけでこれまで気づかなかったことが見えてくるのは季節の変化に限ったことではありません。日々の仕事においても、何気ない場面に目を向けてみると、新たな気づきにつながることが多くあるように感じられます。

ペーパータオルを補充してくれる人、体温計の電池を替えてくれる人、急な雨で洗濯物を取り込んでくれる人、詰まったトイレを直してくれる人、ガソリンが減っているのに気づいて入れてきてくれる人・・・。仲間の頑張りやさりげない気遣いに気づくことで、互いを支えあう関係が生まれます。忙しい毎日の中では、目の前の業務に追われ、周囲に目を向ける余裕を失いがちですが、少し立ち止まり、周りに目を向けることで、これまで見過ごしていた大切なことに気づくこともあります。

そして周囲の変化に気づくと同時に、自分自身の変化にも目を向けたいものです。以前は難しいと感じていた仕事ができるようになったり、相手の立場に立って考えられるようになったり、目立った成果ではなくても、日々の経験の積み重ねが少しずつ自分を成長させてくれているのだと思います。

年の瀬が近づくこの時期に少し立ち止まり、周囲への感謝とともに自分自身の歩みを振り返ってみるのもいいかもしれません。日々の小さな変化を見逃さず、そこから得た気づきを学びにつなげながら、一人一人が互いに支えあいともに成長できる職場づくりに努めていきます。

顔が見えない会話

生活支援員　小畑 満月

私は生来から電話という物が苦手でありました。それは私自身、吃音持ちということもあり、小さい頃から電話でどもることに極度のトラウマが起因し、相手の表情や声の抑揚が伝わり辛い暗闇の中で会話することが難儀でありました。しかしながら、今年度より施設環境課の課長に任命され、最初こそはなぜ、業者との電話対応が多い課の課長に自分を選んだのかと疑心暗鬼でしたが、電話回数を重ねるごとに自分の中でコツを掴んでいき、電話で業者との依頼内容、日にち、費用などの取り決めが上手く行ったときに、ある種の成功体験のような高揚感が得られました。

他の人にとってはたかが電話ですが、私にとって電話を少し克服したことは紛れもない成長であり、課長になって良かったと思っています。今ならなぜ環境課の課長になったのか少し分かるような気がします。